

中国における針灸・推拿の現状

長春大学特殊教育学院針灸推拿科¹⁾、保健科学部保健学科鍼灸学専攻²⁾
筑波大学大学院修士課程芸術研究科³⁾

宋 宇¹⁾ 殿山 希²⁾ 形井秀一²⁾ 諸黎瑋³⁾

要旨：鍼灸学専攻では、大学間交流協定締結校である中国長春大学特殊教育学院針灸推拿科宋宇先生の招聘に当たって、本専攻の教員と学生に中国の針灸手技療法の現状を講演していただいた。本稿はその時の講演原稿の日本語訳に若干の注釈を加えたものである。

キーワード：中国、針灸、推拿、実技教育

2007年11月6～12日、本学と大学間交流協定締結校である長春大学特殊教育学院鍼灸推拿科の宋宇先生と学生の王愛新さんを本学に招待し、日本の鍼灸手技療法を研修していただいた。その研修期間中に、本学鍼灸学専攻教員と学生にも、中国の針灸手技療法の実情を知る機会がほしいと考え、先生に予め招待講演をお願いした（準備の詳細については、本誌別稿『中国長春大学特殊教育学院針灸推拿科からの教員と学生の研修を受け入れて』参照）。

本原稿は11月8日10:30～11:50、筑波技術大学保健科学部学生会館において行われた招待講演の原稿を翻訳したものである。日本であまり馴染みのない内容については、講演前に演者に確認して、講演会では聴衆に説明を加えた。その箇所を監修者注釈として示す。本稿では、訳者注は原稿中に、監修者注釈は終わりに掲載した。

【講演原稿】

針灸^{注1)}・推拿^{注2)}は中医学の治療法の一つである。しかし、針灸・推拿の現状はどうであるかという問いには非常に答えにくい。違う人々が違う角度から見ると、様々な結論が出てくる。私は専門家として、次のような見解を示す。

1. 針灸・推拿に関する理論

針灸と推拿に関する理論の基礎は違う。針灸に関しては『針経（靈枢）』、『難経』、『針灸大成』などの古典が現存し、現代針灸理論研究、針灸実験研究も行われているので、古典的な臟腑経絡理論と現代科学とが結びつき、国際的な針灸理論が確立しつつある。しかし、推拿に関する古代典籍である『皇帝妃伯按摩十卷』は既に散逸しており、また近代では小児科理論しか見当たらない。更に、現代でも系統的な推拿特有の理論や研究もなく、すべて解剖学と生体力学で骨や軟部組織の病態を説明し、中医学の内科と針灸理論の知識で内臓と身体の病気を説明するにとどまっている。

推拿よりも針灸の方が系統的な理論を持っているので学生は理解しやすく、教員は説明しやすいが、それでも薬物学と比較すると、針灸を教えるのは難しい。針灸の経絡や経穴に関する理論は現代西洋医学で証明できていないことから、経絡とは何か、経穴とは何か、どのように見つけるのか、どのように使うのか、針灸理論中の効能は何か、補法と瀉法はどのように行うのか、など、数々の疑問が浮上する。現在、多くの針灸を専門に学ぶ学生がただ動作を模倣するばかりで、針灸の真の効果を得られていない。針灸技術は伝わりにくくなってきている。

推拿は系統立った統一的な理論がないので、多くの流派が誕生した。例えば、武術内功流派^{注3)}、一指禪流派^{注4)}、整脊正骨流派^{注5)}など、100流派以上が存在する。現在、推拿の研究はその理論を完成させるための助けが少なく、理論の発展が遅いものの、進歩し続けてはいる。推拿に統一された理論が乏しいことは学生指導上、常に授業中の難点となっている。

2. 針灸・推拿の社会環境

2.1 針灸・推拿の医学的位置

中国の医学界では、現代西洋医学が重視され、発展の主流となっている。次いで中国伝統医学ということになるが、それには中医学、モンゴル伝統医学、チベット伝統医学など、多くの伝統医学が含まれる。針灸・推拿は中医学に属しており、中医学の中の治療法としてはあまり重視されていない補助療法の一つである。この問題について、数人の学者達が注目をしている。第三回国際伝統医薬大会で、学者達は中国国内における針灸の現状を「衰退」、「下降」、「厳しい」などの言葉を用いて示した。彼らは、「このままにしておくと、数年後、中国は単に『針灸の故郷』であるだけになってしまう」と考えている（訳者注：中国語での「針灸の故郷」という表現には、「中国は針灸の生まれた土地

ではあるが、既に針灸の存在していない所」というニュアンスがある)。

2.2 針灸・推拿の資格制度

現況は厳しいものの、針灸・推拿には国家針灸医師と推拿医師の資格制度があり、資格試験がある。針灸・推拿の合法的な医療的地位は認められている^{注6)}。更に、サービス業界では、多くの保健推拿師が便利なサービスを病気ではない健康な人々に提供している^{注7)}。

針灸・推拿は便利で直接的(局所的、物理的)なので薬物のような副作用がなく、この点に人気がある。この評価は授業に臨む学生の針灸・推拿に対する興味や知的関心を喚起し、大きな影響を及ぼしていると思われる。

3. 針灸・推拿の実際の応用と発展

実際に針灸施術を行う場合には、多くの種類の針を用いる。例えば、古代九針^{注8)}、梅花針、火針^{注9)}、三稜針など。更に、多くの操作技法がある。例えば、蒼龜探穴^{注10)}、白虎搖頭^{注11)}、青龍擺尾^{注12)}、燒山火^{注13)}、透天涼^{注14)}などである。また、多くの現代的な器械や設備も併用する。例えば、電針^{注15)}、磁針^{注16)}、赤外線などである。針灸理論を応用して、経穴の前後、左右、表裏などの配穴や組み合わせなど様々な選択がある。

針灸をして患者が得る感覚には、酸(訳者注:運動後の筋肉痛に似た痛みの感覚)、漲(訳者注:水ぶくれが割れる感覚、ニキビが出て来る時の硬く痛い感じ)、重(訳者注:重だるい疲労感に似た感覚)、麻(訳者注:しびれ感)がある。施術時の刺し手に感ずる感覚には、滑、緊、澁、沈などの感覚がある。鍼灸の手技では、得気^{注17)}、候気^{注18)}(訳者注:候は「待つ」の意味)、行気^{注19)}、補気^{注20)}、瀉気^{注21)}、調気^{注22)}などを使って、経絡の気を調整する。

針灸で治療を行う病気の種類は多い。更に、ダイエットや美容の効果もある。針灸療法が得意なのは鎮痛や神経システムに関わる病気などの治療である。WHOも針灸で治療できる43種類の疾病を発表し、針灸は中国から世界へと進出し、国際化が進んでいる。

しかし、推拿で治療する疾病の方が実はもっと多い。主に軟部組織の傷害、運動での損傷、運動器疾患、内科病、小児科病、婦人科病、老年病などに用いられている。

推拿で治療する時、同じ疾病でも流派によって理論や手技が異なる。例えば、寝違いの場合、解剖学の理論で治療するとなると、一指禅や揉みや引っ張りなどの手技で筋肉の痙攣を緩和させて効果を引き出す。また経絡経穴の理論を用いれば、病因である経絡を見つけ、温冷電法で治療することもできる。もう一例をあげれば、肩関節周囲炎の場

合、様々な流派が力の強さや引っ張りの程度をそれぞれに調整しながら治療し、同じ効果を得ることができる。

推拿治療においては、操作の選択肢が多いので、教授する時は発展的に考えさせるような授業を行い、学生の考えを引き出すようにしている。

推拿の操作を教授する時、地方によって力の入れ方や使い方、訓練が違っているので、同じ手技と動作でありながら、伝える感覚も違う。習慣や個人の好みによって、力の入れ方の好き嫌いがある。ゆえに、授業では、ただ一つの力の入れ方を勉強しただけではすべての人を満足させることができないという点を学生に理解させたいと考えている。

経穴を使う時は、推拿と針灸での使い方が違う。針灸で経穴を使う時は一点から直線で、刺し、抜き、捻りなどの方法で操作をする。しかし、推拿の場合は、体の表面から内部まで立体的に、引き、揉み、押しなどの方法で操作する。そのため、経絡や経穴を探し、感じ、使う時、ただ体表に引いた経絡の線や点だけではなく、針灸と推拿の特徴を考え、それぞれ違う方法を使うべきであると考え。

文献

- [1] 王雪苔: 中国針灸 25 (2): 2005.
- [2] 形井秀一: 中医学、鍼灸と整体医学雑誌 1 (1): 25-26, 2006.
- [3] Trinh K, Graham N, et al: Acupuncture for neck disorders, Spine 32 (2): 236-43, 2007.
- [4] 王雪苔: 中国針灸 23 (1): 2003.
- [5] 王雪苔: 中国針灸 24 (2): 2004.
- [6] 王雪苔: 針刺研究 4号: 1997.
- [7] 世界針灸学会連合会. 針灸の病症診療規範

監修者注釈

- 1) 中医学では、シンキウを「針灸」という簡体字で通常表記している。日本で行われているシンキウを表すには、「鍼灸」と記載する場合が多い。
- 2) 推拿(スイナ, tuina)とは、中国の手技療法、中国版あん摩マッサージのことである。「推」は軽擦法、「拿」は筋肉を把握して行う技法(揉捏法を含む)を意味する。推拿は、古来は厳密に「推」と「拿」の二法しか用いられなかったが、現在では、いろいろな技法、他国の技法なども含み、広く「手技療法」の意味で用いられる言葉である。
- 3) 武術に端を発する流派で、気功を治療に取り入れる。主に、軟部組織の症状に用いる。

- 4) 術者は軽く拳を握り、四指の中節骨やPIP関節を患者の体に当てて動かす方法。内科的疾患の治療に用いる。
- 5) 日本の柔道整復のように、骨折や骨の外傷の治療に用いる。
- 6) 日本では、はり師、きゅう師は別々の資格であるが、中国では針灸医師として一つの資格である。針灸医師と推拿医師は衛生局の管轄の国家資格である。医療としての免許であり、人に治療することができる。
- 7) 保健推拿師は労働省管轄の国家資格である。医療的な行為はできないが、慰安・癒しを目的とした手技療法をすることができる。すなわち、推拿医師は病気を持っている人に治療的に関わり、保健推拿師は特に疾患を有さない健康人にリラックスや疲労回復を与える。
- 8) 古代九針は多くの針が現在、形を変えているため、古代九針が直接用いられることは少ないが、それぞれの針の治療についての古典的な考え方が現在も用いられている。
- 9) 火針は、針先を真っ赤に焼いて、患部に瞬間的に刺す方法で現在もよく行われる。組織の損傷もあるが、体に寒が入った時に用いる。
- 10) 刺針の深さを変えながら、刺針転向法を加える技法。
- 11) 刺入部位に接圧を加えて針刺激を伝達し、実を瀉する技法。
- 12) 刺針後、針柄を前後左右にゆっくりと振り動かす。抜針もゆっくり行う。虚を補う。
- 13) 針をゆっくりと刺入し、針先を前後左右に転向する。

被術者が刺針部位に熱さを感じたら抜針する。

- 14) 針を素早く深刺し、被術者が刺針部位に冷感を感じたら抜針する。

以上、10～14の鍼の操作技法については、簡単な説明のみで終わり、実技講習を行っていないため、詳細は監修者、訳者ともに明確ではない部分がある。技法を知りたい場合には、正書で確認していただきたい。

- 15) 日本の低周波鍼通電療法と同じ。
- 16) 針治療に磁気の利用するもので、針に異種金属による電位差現象を応用している現代版奇経治療のような方法であると想像する。
- 17) 針を刺入して、酸・漲・重・麻の感覚を得ることを得気と言う。
- 18) 刺針して得気が得られない場合には、気が至るのを待つこと。気が至るようにするために、以下の行気、補気、瀉気、調気のための技法を行う。
- 19) 滞りのある部分を取り除いて気がめぐるようにすること。
- 20) 気を補うこと。
- 21) 過剰な気や邪気を取り除くこと。
- 22) 気を調整すること。

なお、原文は宋宇が執筆し、翻訳は諸黎璋、監修を殿山希、形井秀一が行った。

The Current Status of Acupuncture and Massage in China

SONG Yumr¹⁾, DONOYAMA Nozomi²⁾, KATAI Shuichi²⁾ and ZHU Liwei³⁾

¹⁾A Course of Acupuncture, Moxibustion, and Massage, Special Education College of Changchun University

²⁾A Course of Acupuncture and Moxibustion, Department of Health, Faculty of Health Sciences
Tsukuba University of Technology

³⁾World Heritage Studies of a Master's Program in Art and Design, University of Tsukuba

Abstract: The presentation, entitled "Current Status of Acupuncture and Massage in China" was offered to Song Yumr, who was the first person invited to study a Course in Acupuncture and Moxibustion at the Tsukuba University of Technology. He is a director of the Course in Acupuncture, Moxibustion, and Massage at the Special Education College of Changchun University. This report is a translation of the presentation, with several added annotations by editors.

Keyword: China, Acupuncture, Chinese massage, Practical training